

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	放課後等デイサービスKID ACADEMY TECHNOLOGY細島校		
○保護者評価実施期間	2024年11月9日		2024年12月7日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	36	(回答者数) 22
○従業者評価実施期間	2024年11月26日		2024年12月1日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	4	(回答者数) 3
○事業者向け自己評価表作成日	2024年12月13日		

○分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	指導員が全員資格保持者で経験が豊富なため、専門性の高い療育と個々に適した支援の提供ができる。	提供する支援内容を職員間でしっかり共有し、統一した療育に努めている。	些細な変化や気になることがあれば、すぐに情報共有しニーズに合った支援が行えるよう情報をアップデートしていく。
2	好きな活動に伸び伸びと取り組める環境を整備しており、得意分野のスキル向上に繋がっている。	「できた」という達成感や自信が、次のステップへのモチベーションに繋がるようポジティブな声掛けを意識している。	児童の小さな努力や成長を見逃さないようにし、「自分の力」を信じられるようにサポートしていく。
3	定期的なイベントの開催により、マンネリ化しない活動を行っている。	5領域を意識した多彩なイベント内容を工夫している。	特定の曜日にイベントが偏らないようにし、全ての児童に必要な支援が行き届くように工夫する。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	トイレがバリアフリー構造にはなっていないため、車いすを使用している児童のトイレ移乗時は、介護者・介助者ともに身体的な負担が大きい	トイレの入り口の狭さや開閉の幅などは、建物の構造上の問題であり容易に変更ができない。	介助者が安全にスムーズにトイレへ移動できるよう、普段から什器や備品の設置場所に配慮し導線を確保する。介助は訓練を受けた者に限定していく。
2	地域との交流や児童クラブ・児童館など、事業所以外で他児と関わる機会が持てていない。	利用者の年齢層が比較的高いため、それぞれの需要や要望にマッチした交流内容や場所を見つけれられていない。	事業所内でどのような形で交流の機会が持てるか検討し、対外的なアプローチを行っていく。双方にとって有意義な取り組みとなるよう、実施に向け内容の話し合いを重ねていく。
3	保護者同士の交流の機会が持てていない。児童の成長を見てもらい、身に着けたスキルなどを知ってもらい機会が少ない	発表会を行う場合は、駐車場の確保が難しい。平日は働いている家庭も多く、保護者同士の交流や研修の日程調整が難しい。	家族向けにアンケートを実施し、子供たちの様子や成果物を見てもらう方法についてデータを収集する。回答をもとにどんな取り組みができるか検討していく。